

事務事業名	みくに龍翔館管理運営事業			事業コード	10050805121
所管部署	みくに龍翔館	電話	82-5666	記入者名	天井 和峰
事業対象	坂井市民、坂井市内外の利用者及び坂井市を訪れる観光客				
総合計画	基本構想	生涯を通じて学び・育つまちづくり		事業区分	自治事務（任意的なもの）
	基本計画	歴史・文化・芸術の伝承と振興		事業種別	施設管理事業
実施主体	市	実施手段	市が直接実施	委託内容	
根拠法令	有	社会教育法、博物館法、博物館法施行令、文化振興基本法			
根拠例規	有	坂井市みくに龍翔館条例、坂井市みくに龍翔館施行規則			
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画			
【事業の概要】	文化財の保護・調査と施設の充実 みくに龍翔館は開館後30年を経過しており、施設の老朽化に対応し、展示の充実化を図る。また、坂井市の博物館として資料収集・調査研究を実施し、市の文化遺産の散逸を防ぎ、地域文化遺産の保存活用を進める。				
	毎週水曜日と年末年始を除き、午前9時から午後5時まで開館。入館料大人300円、小人150円を徴収した。本年度は特別展期間中の入館料を大人500円、小人250円を徴収し、受益者負担の原則を強化した。施設の管理とともに資料の収集・保存・調査研究・公開を実施している。				
【事業の目的・事業の概要等】	◆施設管理 修繕料548,331円、需用費（修繕料・紀要印刷費以外）7,303,506円、役務費（運搬料以外）608,084円、委託料（燻蒸以外）7,106,378円、使用料及び賃借料454,991円、備品購入費（消火器他）102,900円、その他負担金等20,900円				
	◆企画展 「むかしの学び舎写真展」（4/27～5/26）期間中入場者1,536人 前年度の市内学校調査で収集した古写真を中心に展示 「トリックアート作品展」（7/13～9/1）期間中入場者2,015人 トリックアートコンペ入賞作品の展示				
【事業の概要】	◆特別展 「本多成重と丸岡藩」（10/26～12/1）期間中入館者2,481人 特別展図録 750部発行 報償費216,420円、旅費（調査・資料借用）142,880円、需用費682,798円、役務費（運搬料他）1,442,480円、委託料（宣伝）525,000円、写真使用料8,400円				
	◆郷土史研究講座 「本多氏の丸岡領支配」（10/20） 講師 牧野行治氏 定員70名 「丸岡城の魅力ー縄張・天守・瓦」（3/30） 講師 中井 均氏 定員70名 報償費20,000円、旅費23,940円				
◆資料調査研究 歴史調査謝礼270,000円、紀要印刷代72,450円					

すぐにできる改善提案	坂井市の博物館として市全体の資料収集、調査・研究を実施していきます。		
目標年度 平成28 年度			
取組状況	坂井市の博物館として本年度は、市民より提供のあった寄贈資料・寄託資料を収集し保存した。特別展の開催により、未公開の資料の公開、新資料の発見、研究成果を展示図録として市民に還元を図った。研究講座を開講し郷土史の研究に寄与した。研究紀要を発刊し研究機関としての情報発信を行なった。		
中長期的に取り組むべき改善提案	施設の老朽化に伴う施設改修や常設展示場替えを含めた改修計画作成に着手します。		
目標年度 平成28 年度			
取組状況	施設の老朽化に伴い、部分補修を行い施設管理を行なった。将来の大規模改修の手始めとして、次年度に施設の耐震診断・設備診断を実施する予算化を図った。		

【担当者評価】	【市民のニーズ】 社会情勢や環境の変化により、市民ニーズが薄れていませんか？	A. 薄れていない B. 少し薄れている C. 薄れている	A
	【市が実施する妥当性】 市が事業実施主体となることは妥当ですか？（国、県、民間の活動と重複していませんか？）	A. 妥当である B. あまり妥当でない C. 妥当でない	A
	【受益の公平性】 特定の個人や団体に受益が偏っていませんか？	A. 偏っていない B. 多少偏っている C. 偏っている	A
【事業の概要】	【事務の効率化】 事務手続きの見直しなど、事務の効率性をさらに向上させることができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	B
	【民間活力の導入】 事業の成果を低下させず民間活力（民間委託、指定管理者、まちづくり協議会等）を導入することで、さらにコスト削減することができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A
	【歳入増加策】 受益者負担金や歳入増加策を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	B
【事業の成果】	【事業の成果】 事業成果の目標達成状況は順調ですか？（事業の成果が十分に上がっていますか？）	A. 順調である B. あまり順調でない C. 順調でない	A
	【サービス内容の見直し】 成果を向上させるためサービス水準や対象を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	B
	【他事業との統合】 類似・関連事業との統合により、成果をより向上させることはできますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A

予算	款	教育費	項	社会教育費	目	文化振興費							
【事業のコスト】	コスト	事業費	平成25年度		平成24年度		平成23年度		平成22年度				
			報酬	千円		千円		千円		千円			
			委託費	7,820	千円	7,290	千円	千円	千円	千円	千円		
			需用費	8,607	千円	10,683	千円	千円	千円	千円	千円		
			役務費	2,477	千円	1,497	千円	千円	千円	千円	千円		
			その他	1,259	千円	2,126	千円	千円	千円	千円	千円		
		事業費合計	20,163	千円	21,596	千円	千円	千円	千円	千円			
		人件費	正職員	2.60	人	18,483	千円	2.60	人	18,483	千円	人	千円
			臨時職員	1.80	人	3,694	千円	1.80	人	3,600	千円	人	千円
			人件費合計	4.40	人	22,177	千円	4.40	人	22,083	千円	人	千円
	総事業費	42,340 千円		43,679 千円		千円	千円	千円	千円	千円			
	事業費	特定財源	国県支出金	千円		千円		千円		千円			
			使用料・手数料	3,709	千円	3,154	千円	千円	千円	千円	千円		
			分担金・負担金	千円		千円		千円		千円			
			地方債	千円		千円		千円		千円			
その他			74	千円	314	千円	千円	千円	千円	千円			
一般財源		38,557	千円	40,211	千円	千円	千円	千円	千円				
財源合計	42,340	千円	43,679	千円	千円	千円	千円	千円					

事業の方向性	このまま継続します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	施設の老朽化に対応品が自然体の資料収集・調査・研究を実施していきます。			
実施主体の方向性	現状どおり実施します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	引き続き市が実施していきます。			
コスト投入の方向性	事業費の増加を検討します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	坂井市の博物館として老朽化に伴う施設修繕等の計画的に実施していきます。			
人員投入の方向性	人員の増加を検討します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	今後施設の改修に伴い展示の見直しを行うため学芸員を増員して実施していきます。			
すぐにできる改善提案	坂井市の博物館として市全体の資料収集・調査・研究を実施していきます。			
目標年度 平成28 年度				
中長期的に取り組むべき改善提案	施設の老朽化に伴う施設改修や常設展示場替えを含めた改修計画作成に着手します。			
目標年度 平成28 年度				

	指標名	単位	年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	
成果	みくに龍翔館入館料	円	目標値	5385000	達成率 4176930	達成率 4176930	達成率 4176930	
			実績値	3709350	68.88	3154410	75.52	3817620
成果	みくに龍翔館入館者数	人	目標値	16150	達成率 18854	達成率 18854	達成率 18854	
			実績値	13778	85.31	14530	77.07	17019
活動	講座参加者数	人	目標値	70	達成率 40	達成率 40	達成率 40	
			実績値	70	100	92	230	93
活動	みくに龍翔館所蔵資料の特別利用数	件	目標値	10	達成率 10	達成率 10	達成率 10	
			実績値	28	280	26	260	26
活動	みくに龍翔館所蔵資料収集数（寄贈・寄託・購入・移管）	点	目標値	100	達成率 100	達成率 100	達成率 100	
			実績値	205	205	202	202	195
			目標値		達成率	達成率	達成率	
			実績値					

事務事業名	ONOメモリアル管理運営事業			事業コード	10050805126
所管部署	みくに龍翔館	電話	82-5666	記入者名	天井 和峰
事業対象	坂井市民及び利用者				
総合計画	基本構想	生涯を通じて学び・育つまちづくり		事業区分	自治事務（任意的なもの）
	基本計画	歴史・文化・芸術の伝承と振興		事業種別	施設管理事業
実施主体	市	実施手段	市が直接実施	委託内容	
根拠法令	有	文化振興基本法			
根拠例規	有	坂井市ONOメモリアル条例、坂井市ONOメモリアル条例施行規則			
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画			

【事業の概要】

故小野忠弘の住居兼アトリエの保存とその活用を図るとともに、市民の美術に関する知識の向上と美術文化の創造に寄与する。

冬期間の12月～翌年の2月を除き、毎週金・土・日と祝日の午前10時から午後4時まで開館。企画展時のみ有料とし高校生以上300円を徴収、施設の管理とともに旧小野邸の公開を実施している。

平成25年度は、小野忠弘生誕100年記念事業として、「小野忠弘と美・未来」として9つの企画展を開催しました。企画展の会場を「みくに龍翔館」「ONOメモリアル」「旧森田銀行本店」「旧岸名家」「NTT三国ビル」「旧ギフトハウスグリム」「旧田中薬局」「大木道具店」「勝授寺」「旧兼田道具店」「坂井市商工会館三国支所」「小松長生家」と広い範囲で開催した。事業運営を実行委員会・企画委員会・民間ボランティアにより組織した各プロジェクトチームにより行うことができた。また、同時期開催となった「こどもが描く“ふるさと坂井”絵画展」も「みくに文化未来館」を会場として開催することができた。

◆施設管理
需用費459,271円、役務費10,103円、委託料1,005,222円

◆企画展
・小野忠弘生誕100年記念「小野忠弘と美・未来」展
報償費812,000円、旅費180,080円、需用費262,923円、役務費（作品運搬他）668,257円、委託料（展示、会場管理他）1,571,537円、建物借上げ料160,000円
・こどもが描く“ふるさと坂井”絵画展
審査謝礼・賞品代94,600円、需用費（賞状代）29,993円、賞状筆耕料23,868円、会場使用料47,500円

予算	款	教育費	項	社会教育費	目	文化振興費					
【事業のコスト】	コスト	事業費	平成25年度		平成24年度		平成23年度		平成22年度		
			報酬	千円	千円	千円	千円				
			委託費	2,601千円	1,427千円	千円	千円				
			需用費	752千円	915千円	千円	千円				
			役務費	678千円	75千円	千円	千円				
			その他	1,294千円	687千円	千円	千円				
		事業費合計	5,325千円	3,104千円	千円	千円					
		人件費	正職員	0.60人	4,265千円	0.60人	4,265千円	人	千円	人	千円
			臨時職員	0.20人	410千円	0.20人	400千円	人	千円	人	千円
			人件費合計	0.80人	4,675千円	0.80人	4,665千円	人	千円	人	千円
	総事業費		10,000千円	7,769千円	千円	千円					
	事業費	特定財源	国県支支出金	千円	千円	千円	千円				
			使用料・手数料	千円	94千円	千円	千円				
			分担金・負担金	千円	千円	千円	千円				
地方債			千円	千円	千円	千円					
その他			200千円	千円	千円	千円					
一般財源		9,800千円	7,675千円	千円	千円						
財源合計	10,000千円	7,769千円	千円	千円							

	指標名	単位	年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	
成果	ONOメモリアル入館者数	人	目標値	1707	達成率 1707	達成率 1707	達成率 1707	
			実績値	789	46.22	1049	61.45	707
成果	ONOメモリアル入館料	円	目標値	0	達成率 117000	達成率 117000	達成率 117000	
			実績値	0	---	94500	80.77	114900
活動	ONOメモリアル有料入館者の割合	%	目標値	0	達成率 50	達成率 50	達成率 50	
			実績値	0	---	315	630	58
活動	企画展の回数（主催事業及び後援事業）	回	目標値	2	達成率 4	達成率 4	達成率 4	
			実績値	2	100	4	100	4
			目標値		達成率	達成率	達成率	
			実績値					
			目標値		達成率	達成率	達成率	
			実績値					

すぐに行ける改善提案	高校生現代アートビエンナーレのような人材育成を目的とした事業開催時に地域ボランティアを募集、事業に参加してもらうことで将来企画運営に参加してもらえる人材を育成していきます。
目標年度 平成28 年度	
取組状況	平成25年度に小野忠弘生誕100年記念事業を開催した時、実行委員会・企画委員会を組織し、地域ボランティアと共に事業を実施できた。今後も、事業開催時に地域住民参加を促進したい。
中長期的に取り組むべき改善提案	小野忠弘を顕彰するとともに現代美術の底辺拡大を図り情報の発信拠点となる事業の開催を通して地域ボランティアの育成に努め企画運営に参画してもらうなど、運営改善を検討していきます。
目標年度 平成28 年度	
取組状況	小野忠弘を顕彰する事業の継続により、多くの地域ボランティア参加を呼びかけ、運営の主体となりうる組織の育成を今後とも続けていきます。

【前年度改善案に対する取組状況】	妥当性	【市民のニーズ】 社会情勢や環境の変化により、市民ニーズが薄れていませんか？	A. 薄れていない B. 少し薄れている C. 薄れている	A
		【市が実施する妥当性】 市が事業実施主体となることは妥当ですか？（国、県、民間の活動と重複していませんか？）	A. 妥当である B. あまり妥当でない C. 妥当でない	A
		【受益の公平性】 特定の個人や団体に受益が偏っていませんか？	A. 偏っていない B. 多少偏っている C. 偏っている	C
【担当者評価】	効率性	【事務の効率化】 事務手続きの見直しなど、事務の効率性をさらに向上させることができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A
		【民間活力の導入】 事業の成果を低下させず民間活力（民間委託、指定管理者、まちづくり協議会等）を導入することで、さらにコスト削減することができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	C
		【歳入増加策】 受益者負担金や歳入増加策を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	A
有効性		【事業の成果】 事業成果の目標達成状況は順調ですか？（事業の成果が十分に上がっていますか？）	A. 順調である B. あまり順調でない C. 順調でない	A
		【サービス内容の見直し】 成果を向上させるためサービス水準や対象を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	A
		【他事業との統合】 類似・関連事業との統合により、成果をより向上させることはできますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A

事業の方向性	このまま継続します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	小野忠弘氏の作品展示と氏に関連する美術展や現代美術の次世代を担う人材育成を促す事業を開催します。			
実施主体の方向性	現状どおり実施します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	引き続き市が実施していきます。			
コスト投入の方向性	現状を維持します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	現行予算を最大限に活用して集客に努めます。			
人員投入の方向性	現状を維持します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	現行の人員で事業を実施します。			
すぐに行ける改善提案	高校生現代アートビエンナーレのような人材育成を目的とした事業の開催時に地域ボランティアを募集し、事業に参加してもらうことで将来企画運営に参加してもらえる人材を育成していきます。			
目標年度 平成28 年度				
中長期的に取り組むべき改善提案	小野忠弘を検証するとともに現代美術の底辺拡大を図り情報の発信拠点となる事業の開催を通して地域ボランティアの育成に努め企画運営に参加してもらうなど、運営改善を検討していきます。			
目標年度 平成28 年度				

【事業の成果】